

Bブロック勉強会 報告書

平成 30 年 2 月 8 日 (木) えーるピア久留米 記録：中井 洋介

19:30～ 会長挨拶

19:40～ これから求められる地域のための薬局像

19:50～ SGD (各班で行います)

20:25～ 発表 (2分×4班：班長が発表します)

20:35～ 薬剤師会、連盟からのお知らせ

20:55～ ブロック長挨拶

参加者 37 名 (B1：9 名 B2：10 名 B3：8 名 B4：10 名)

テーマ：『これから求められる地域のための薬局像』

- これから求められる→主語は？…誰が求めているのか
- 地域のための→対象は？…地域の人は？ 中学校区、小学校区、自治会？
- 薬局像→目的は？…なんのために 手段は？…どうやって
- 24時間対応の工夫 など

※現状の課題と今後の取り組み

【B1】

・24時間対応

どの薬局も電話（転送）で対応していた。

主に小児科や精神科の患者さんからの電話が多い。

24時間対応していることは薬袋・薬錠・お薬手帳に電話番号を記載している薬局が殆どだったが、新患の患者さんに対して、24時間対応していることを必ず伝えているという薬局もあった。

・現在取り組んでいること、又は気を付けていること

便秘や肩こりなどの相談があった時にインターネットでストレッチやマッサージの方法を調べておき、次回来局されたときに説明している。そういった事で患者さんとの信頼関係を作り、セルフメディケーションに取り組んでいる。

薬のことなら薬剤師に聞いて下さい！とアピールしている。

「先生には聞けない…」という患者さんが多いので、悩みを一緒に考えている。

薬剤師が忙しい時は、事務員が患者さんの話し相手になっている。

<まとめ>

各薬局、それぞれの特徴を活かし、少しでも患者さんに寄り添えるように工夫していた。

また残薬調整が出来ている薬局が多くみられた。

マンパワーの不足ということが大きな問題となっており 実際に24時間対応や地域での活動が出来ているのか？という疑問もあげられていた。

各薬局から多くの意見が出され、意義のあるSGDになったと思います。

出欠のFAXに、デッドストックのことも記載しておけば良かったと思いました。（3薬局だけだったので…）

【B2】

・24時間の対応は転送電話による対応がほとんど。中には薬局ではなくDrに直接相談する患者がいるので薬の事は薬局に相談してもらうようアナウンスしていきたい。

・処方せん無しで薬局に来てもらうために日頃から薬に関して困った事は無いか声掛けをしている。

- ・病院からもらう検査値表の説明を行い相談にのっている。
- ・処方せんを持ってこない患者が来た時に嫌な顔をせず心よく迎え入れている。
- ・当たり前ではあるがかかりつけとして他の薬局でもらった薬、購入した O T C 薬の飲み合わせの相談も行っている。
- ・検査値より D r に処方方の提案、小さな変化にもフィードバックをこまめに行うなど病院と連携して薬物治療の安全性の向上に努めている。
- ・薬局事務員が、薬剤師ができなかった A D L の相談、家族構成などの細かな相談の話を聞いてフォローしている。

〈まとめ〉

これから求められる地域のための薬局を目指すには細かなことにも気を配り、薬以外の些細な相談にも対応していく、それにはまずはやはり患者の信頼を得る事が第一条件と感じた。薬局で、また薬局以外の場所でも常日頃から声掛けを行い、薬の事はもちろんの事、それ以外に患者が抱える色々な問題に対応していく、患者のニーズに答えていき、そういう薬局こそがこれか地域の患者が求める薬局像なのだと思う。

【B3】

- ・B3 班では現状の課題で話を進めていくと出来ていない事への問題だけ挙がりそうだったので敢えて 24 時間対応などは話していません。
- ・現在取り組んでいること、又は気を付けていること
地域のコミュニティの中で何ができるかなど（学校薬剤師など）。
地域の現状を把握し、その中で在宅をしている薬局と連携を取ってみる。
その中で地域に拘り過ぎると地域以外の医療がおざなりになってしまうのでは、という意見もありました。

〈まとめ〉

地域の為に何が出来るのが大事であって薬局主体となつてはいけな
薬剤師としての職能をアピール出来るイベントなどを考える、それが地域活動の一環になるのではないか。
おくすり健康フェア in くるめ 2018 が 3/18（日）に開催されます。

【B4】

- ・今まで個人的にまた薬局として、ずっと心がけてきたこと、また新しく取り組んでいることを発表・・・「手段」
- ・投薬した後に、どうしても気になる患者さんには自宅に戻られたころに後からフォローの電話をかけて、飲み間違いなどがないように見守っている。
- ・お薬手帳に余白に、副作用や体調の改善など、どんどんメモを書いて記録として患者さんにもわかるように残している。
- ・お薬の事だけでなく、患者の診察後の不完全燃焼部分があれば、そこをできるだけ傾聴し、一歩踏み込んだ会話を心がけている。
- ・世間話を何気なく毎回行い、会話から見えてくる患者の生活背景を把握する。
→ 主語は「患者」、目的は「不安を取り除く」、「飲み残しなどがあるのはなぜか等を患者背景から把握する」
- ・コンプライアンスがあやしい患者にはアフターフォローの電話をかけて、その結果等を医療機関にも伝えて情報を共有する。
→ 「患者に健康被害がおこらないように気を付ける。医療スタッフ間の情報の共有」
- ・意外と残薬調整が薬局でできることを知らない方もいるので、毎回きちんと飲み残しなどの確認をする
→ 声掛けをすることで「薬局ができることを周知してもらえ」→信頼してもらえ
- ・少しでもセルフメディケーションを推進するために、漢方薬を OTC で揃え、東洋医学による健康相談を始めた
→ 主語「患者が」、目的「気軽に相談できる薬局をつくる」、目的「セルフメディケーションの推進」
手段「東洋医学の知識をより専門的に身につける」

今までやってきたことを踏まえて、今後さらに取り組んでいきたいこと、またその問題点

- ・精神疾患を抱えた児童の対応をきめ細かにしていきたい→コミュニケーションスキルをあげたい

→コミュニケーションスキルアップの研修会開催希望

- ・検査値の研修会に参加したが勉強不足でついていけなかった→研修会に参加していく
- ・施設への在宅しかできていないので、個人宅の在宅を開発して深くかかわっていききたい
- ・薬局窓口での食事指導を充実させていきたい
- ・漢方薬をもっと勉強してみたい
- ・在宅、セルフメディケーション、検査値把握などやってみたいことはたくさんあるが、マンパワーが足りずになかなか実現できないが
問題点(この意見は多かった

〈まとめ〉

いきなり24時間対応しよう、在宅に積極的にいきましょう、OTCを沢山そろえましょうと言われても、個々の薬局での事情は様々で、足並みをみんなが揃えることは不可能である。しかし、なにか一つずつでもいいから、今までより更に1つステップアップしていく企業努力は必須だと感じた。

ではいったい何をしていけばいいのか困惑している状態の薬局も多いので、他の薬局が取り組んでいることを聞くことで、何らかのステップアップへのヒントが得られたら、このブロック勉強会に参加した意義があるのではないかと感じた。

以上